

一般会計は35億2,300万円
北部地域に小学校用地を
 茨曾根公民館・古川保育所・市営住宅を新築

52年度
 予算案

健康、便利、安全そして、うるおいのある生活を営むために、をモットーに……

- 生活基盤の整備
- 教育施設の充実
- 効率的な行財政の運営
- 社会福祉の増進
- 産業の育成

こうした重点目標にそって昭和52年度の市の予算案がまとまりました。

このうち一般会計予算は、本年度当初より8億1,500万円あまり(30%)増の35億2,300万円。これまでにない大型予算となりました

52年度は、赤字再建団体から抜け出す第一歩……長い長いトンネルでした。

しかしながら、ホットはしていません。

地方自治体をとりまく環境はきびしく、とくに財政の悪化はより深刻な問題になっています。

くわえて、本市の場合は4月から市民税率の引き下げを実施。税収はいままでより約5,300万円少なくなる見込みで、財政運営はまだまだ苦しいといったところが本音です。

こんな中で、市では、人件費や物件費などの消費的経費はこれまでどおりにダウンと押え、建設事

業など、投資的経費を目いっぱい取り入れる、積極的投資型予算案を編成しました。

この予算案は、3月9日からの市議会で審議されます。詳しい内容は後日の広報でお知らせします

× × ×

新しい事業を中心に、新年度の「目玉」を上げてみましょう。

■宅地開発が進む北部地域に、将来を見こし小学校建設用地を確保します。

■スポーツやレクリエーションに対する皆さんの欲求は、年々高まる一方です。そこで、総合体育施設の建設をめざし、調査費が盛りこまれました。

■低所得者のために市営住宅12戸を鯉沼地内に建設します。

■古川保育所を鉄筋建てに移転新築。収容能力も60人から100人にアップです。

■新しい地域社会づくりをめざし、茨曾根に地区公民館を新築。心と心のかよった市政を進めます

■古代から昭和50年までの市の歩みをまとめる、市史の編さん事業が4か年計画で取り組まれます

■電話で、市の行事や健康相談日などが知れる、テレホンサービスを実施します。

■中小企業の貸し付け金を、大幅に増やしました。

ガキ、町内、地区広聴会で出された意見、要望などを十分に検討——これらを積極的に生かすという方向で、作業が進められてきました。

そして、いままでのような事業中心の編さん方式から、市民生活優先の原則に立って、まとめられています。それは健康、便利、安全そして、うるおいのある生活を営むために必要な、関連施策の充実を定めています。

たとえば、公園、緑地など都市施設をはじめ、教育、文化施設の充実。みんなが安心して暮らせるために、福祉向上と保健医療の確保。生活の基盤である道路や下水道の整備など——住民福祉政策に重点がおかれています。

以上のことからも、市民生活に関係の深い、身近な共同の問題は「自分たち自身の意志と責任によって処理する」という地方自治の本旨に基づいて、皆

さんから市政の主人公として、この計画を推進してほしいわけ

です。これまで白根市は、田園のま

ち、風のまちとして牧歌的な気

風をもち、先人たちが自分たちの手で、まちを築いてきました

私たちは、この伝統を生かし白根市民であることを自覚し、みんな考え、協力し合いなが

ら、活気にみちた、誇り高い白根市を築き上げなければなりません。

もちろんこうした理想は、六十年までに実現することは困難かも知れません。しかし、その理想を高く掲げそれに向って、一步一步断続の努力をかさねていくことに意義があるといえます。

自分自身の意志と責任で

活力ある
 白根市建設のために

総合計画がまとまりました

健康なまち、くらし
 便利なまち、くらし
 安全なまち、くらし
 そして
 うるおいのある
 まちとくらしへ



昨年から見直し作業を進めてきた『白根市総合計画』がこのほどまとまり、二月十五日に開かれた総合審議会(今井平三郎会長)にはかられました。

その結果、同審議会は「この構想は妥当である」と吉沢市長に答申——。今後は、三月市議会に提案され審議されることとなります。

総合計画の意義

白根市は、社会の大きな変動の中で、新たな発展の道を切り開かなければなりません。それにはまず、市民の要望を十分に受け入れ、それらを整理統一して、時代に即応した都市環境を整えることが大切です。そのためには、将来の展望に立った計画が必要です。それがなくしたならば、無秩序で主体性

見直しの理由

のなきびしいまちになってしまい、とても快適な市民生活を営むことはとうてい困難です。そこで市では、昭和四十六年十二月に、昭和六十年を目標にした総合計画を策定——。これにそって、学校統合や児童公園の整備、工場団地の造成などの事業を進めてきました。

市民生活優先の計画へ

望む必要が生じてきました。このようなことから吉沢市長は、昨年の四月議会で「いままでの総合計画を、時の流れにあうよう調整したい——」と、皆さんに約束しました。

新計画も六十年を目標にしていきます。策定にあたっては、昨年十月に実施した世論調査や、皆さんから市長に寄せられたハ